掲載日:2015年10月23日,面名:M206X0,記事ID:K201510230A0M206X00003 (C)河北新報社

ドラフト2位指名 仙台大・熊原健人投手

歓喜 大学初プロ誕生

角田市で生まれ、柴田高、仙台大で力を付けた熊原健人投手(22)が22日、プロ野球DeNAからドラフト2位指名を受けた。仙台大からのプロ野球入りは初めてで、チームメートや関係者は沸き上がった。

(1・11・12・13・25・27面に関連記事)

熊原投手は仙台大で硬式野球部の森本吉謙監督(41)、高橋義夫部長(68)と指名を待った。名前が読み上げられると「選ばれて良かった。大学初のプロ選手になれて光栄」と表情を緩ませた。

部創設47年目で初めてプロの門をたたいたエースを約150人の部員が祝福。胴上げして喜びを分かち合った。

主戦の一人で2年の馬場皐輔投手(20)は「投手がどうすればプロに行けるか、道のりを見せてくれた」と目を輝かせた。

柴田高時代の恩師平塚誠監督(43)は「高校時代から素質は十分だった。素直な性格が成長を促した」と喜んだ。

森本監督は「先発で試合をつくれるし、抑えでも心配はない。任された場面で結果を積み重ねてほしい」と期待を込めた。

目標をしたためた色紙を手に笑顔を見せる仙台大・熊原投手

地元、祝福の花火

角田 実家の境内でPV

熊原健人投手の実家で、角田市岡の深山神社境内で22日、ドラフト会議のパブリックビューイング(PV)が開かれ、市民約100人がテレビ中継を見守った。DeNAに2位指名されると拍手と歓声が起こり、祝福の花火が上がった。

近くの自宅で中継を見守った熊原投手の父孝さん(66)は「息子の夢がかなってよかった。大魔神、佐々木主浩投手(仙台市出身)も活躍した宮城になじみのチーム。全力で野球に打ち込んでほしい」と話した。

角田市出身選手のドラフト指名は初めて。市は23日に庁舎に激励の懸垂幕を掲げる。市民有志は後援会の設立準備を進めている。

境内でドラフト会議の中継を見守る角田市民